

校内暴力といじめ 2008

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

2008.12.27a

仮説実験授業研究会 丸山秀一

2008 年 11 月、文科省は前年度における「児童生徒の問題行動等の状況について」を発表しました。その中から特に「校内暴力」と「いじめ」について見ていきましょう。

■第一部 校内暴力

【問題】

2002 年度にいったんは減少に転ずるかに見えた校内暴力は、2006 年度には、割合で過去最高となりました。

文科省は、2006 年度からのデータから、それまでの公立学校に加えて「国立学校、私立学校」も加えていますが、次のグラフは「公立学校のみ」のグラフです。

それでは文科省発表と同じく「国立・私立学校」も加えたグラフを書くと、2006 年度の割合のグラフはどうなるのでしょうか。

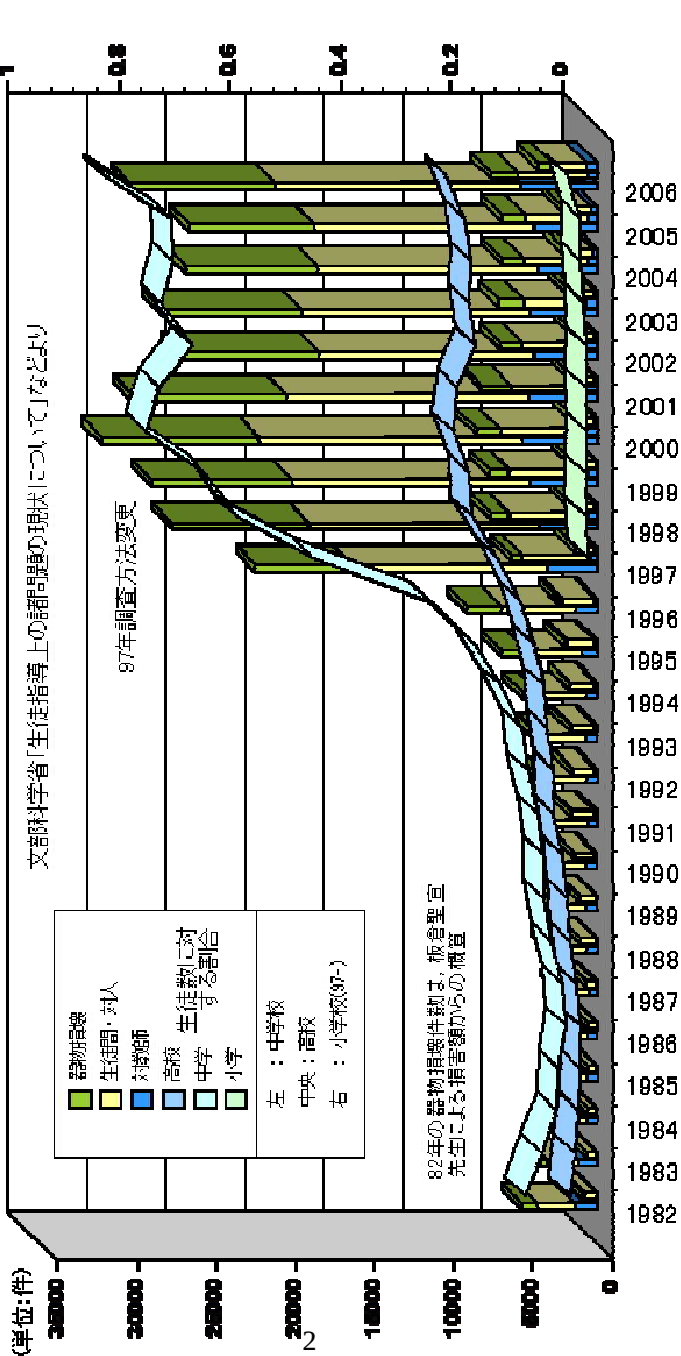
予想

- ア やはり過去最高となる
- イ 過去最高とはならない
- ウ なんともいえない

校内暴力発生件数と在学者に対する割合

資料提供元：文部科学省

(単位：%)



■私立学校

		件数	在籍数	割合
国立	小	5	46484	0.01%
	中	215	33407	0.64%
	高	9	8844	0.10%
	計	229	88735	0.26%
公立	小	3755	7067863	0.05%
	中	29476	3320772	0.89%
	高	873	2456231	0.04%
	計	34104	12844866	0.27%
私立	小	9	73070	0.01%
	中	6715	247348	2.71%
	高	3530	1038282	0.34%
	計	10254	1358700	0.75%

国立学校と私立学校のデータは、表のようなものです。特に私立学校の中学校と高校で暴力の割合が高くなっています。

これらのデータを加えてグラフにするとどうなるでしょう。当然、件数のグラフは大きく

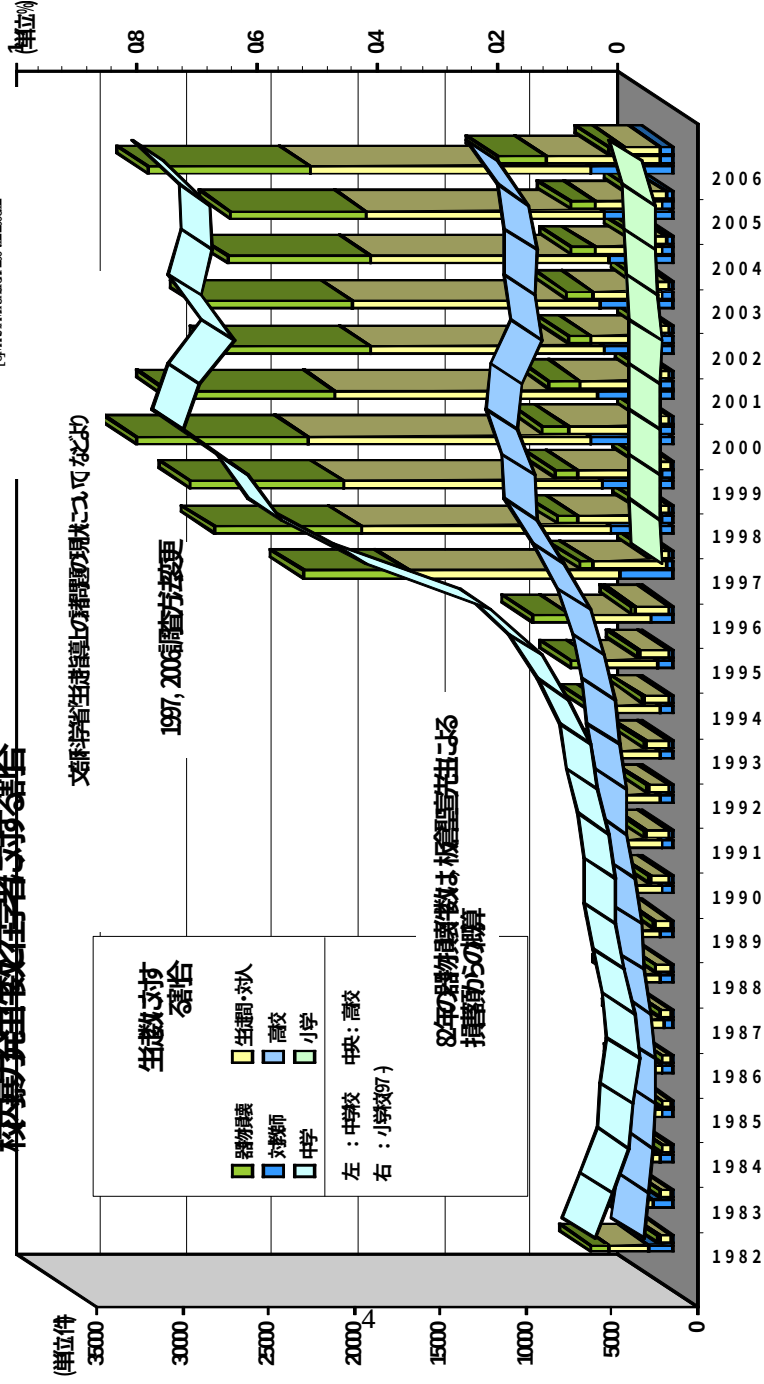
なりますが、割合グラフに変化はほとんどありません。国立や私立学校の在籍者が公立学校よりもずっと少ないからです。

また、文科省は 2006 年度分から「けがや診断書、警察への届けの有無に関係なく報告するよう求めるなど、積極的な報告を促した」のですが、それは、ほとんど影響していないようです。

このように割合だけ考えてゆくのであれば、この調査データの変更は特に気にしなくても良さそうです。そこで、2006 年度以降のデータは、国立・私立学校が含まれたデータでそのまま見てゆく事にします。

校内英才生数の増減に対する割合

【OJRWVMA SEUCH 2014/20182



【問題】

2006 年，マスコミは 2005 年度のデータについて「小学校の校内暴力急増」として大きく報道しました。そして，2007 年発表で 2006 年度のデータが出たときは，マスコミはほとんど何の関心も示しませんでした。しかし，それは，過去最高だったのです。

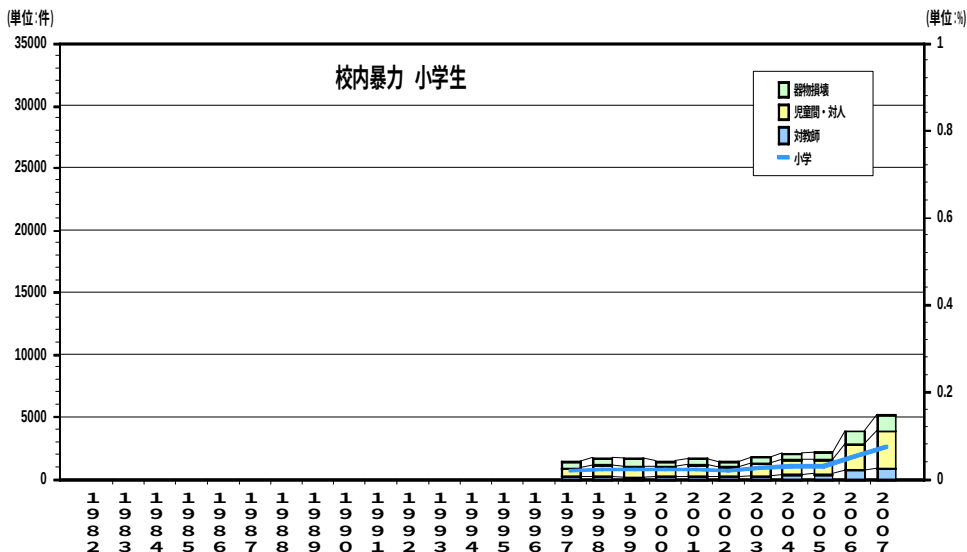
では，2007 年度の小学校の校内暴力の発生件数とその率はどうかだったでしょうか。

予想

- ア さらに増加
- イ 減少
- ウ なんともいえない



■小学校



小学校での校内暴力は、増え続けています。特に「対児童暴力」が大きく増えています。

なぜマスコミは 2005 年のデータで「小学校で校内暴力悪化」と大きく報道し、2006 年のデータではなにも報道しなかったのでしょうか。さらに、その傾向は全国紙すべてが同じ傾向だったのです。「報道だけではだまされる可能性がある」ということは、間違いないようです。

今年の報道がどうだったのかは、あとで見てみましょう。

【問題】

昨年度の発表のデータでは、中学校も割合で過去最高の暴力でした。では、今年発表のデータではどうなっていたでしょうか。

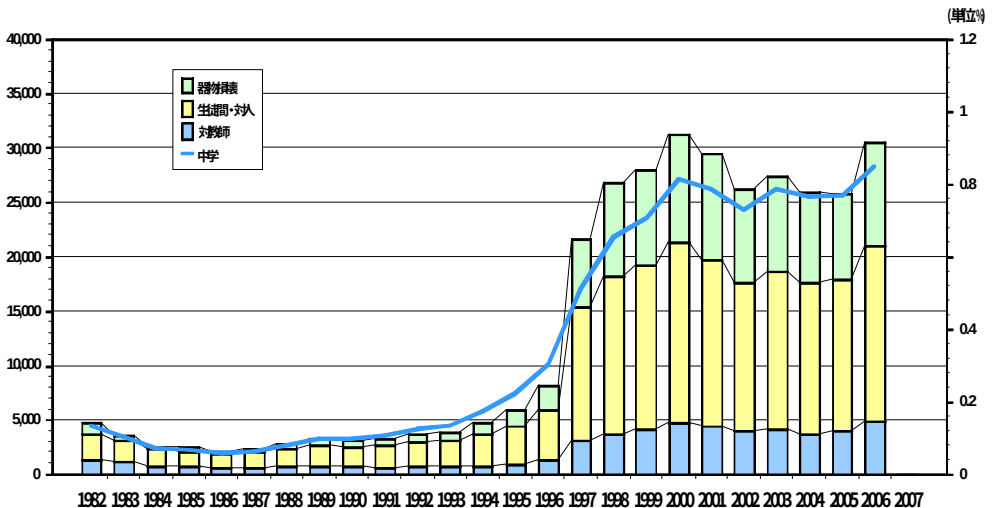
高校では、どうだったでしょう。

予想

ア さらに増加

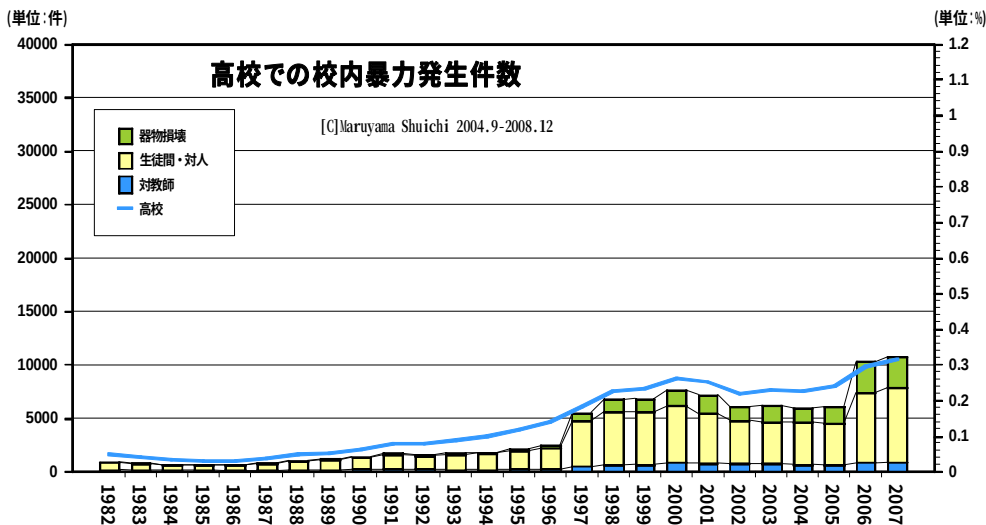
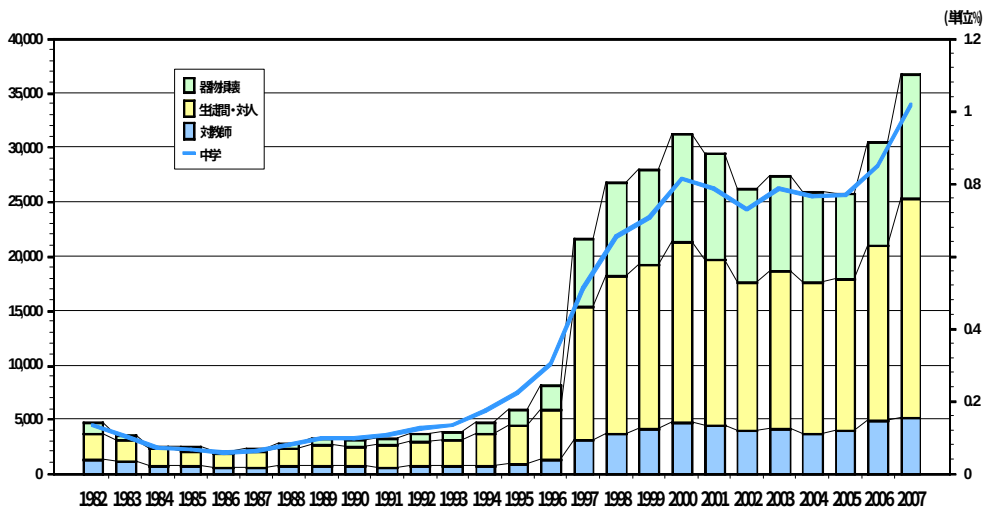
イ 減少

ウ なんともいえない



1997年にグラフが大きく変わったのは、この年に調査方法を変更したからです。

■中学校と高校



中学校での暴力は、件数・比率とも急増し、過去最高を大きく更新しました。それは高校でも同じで、件数・比率とも過去最高となったのです。

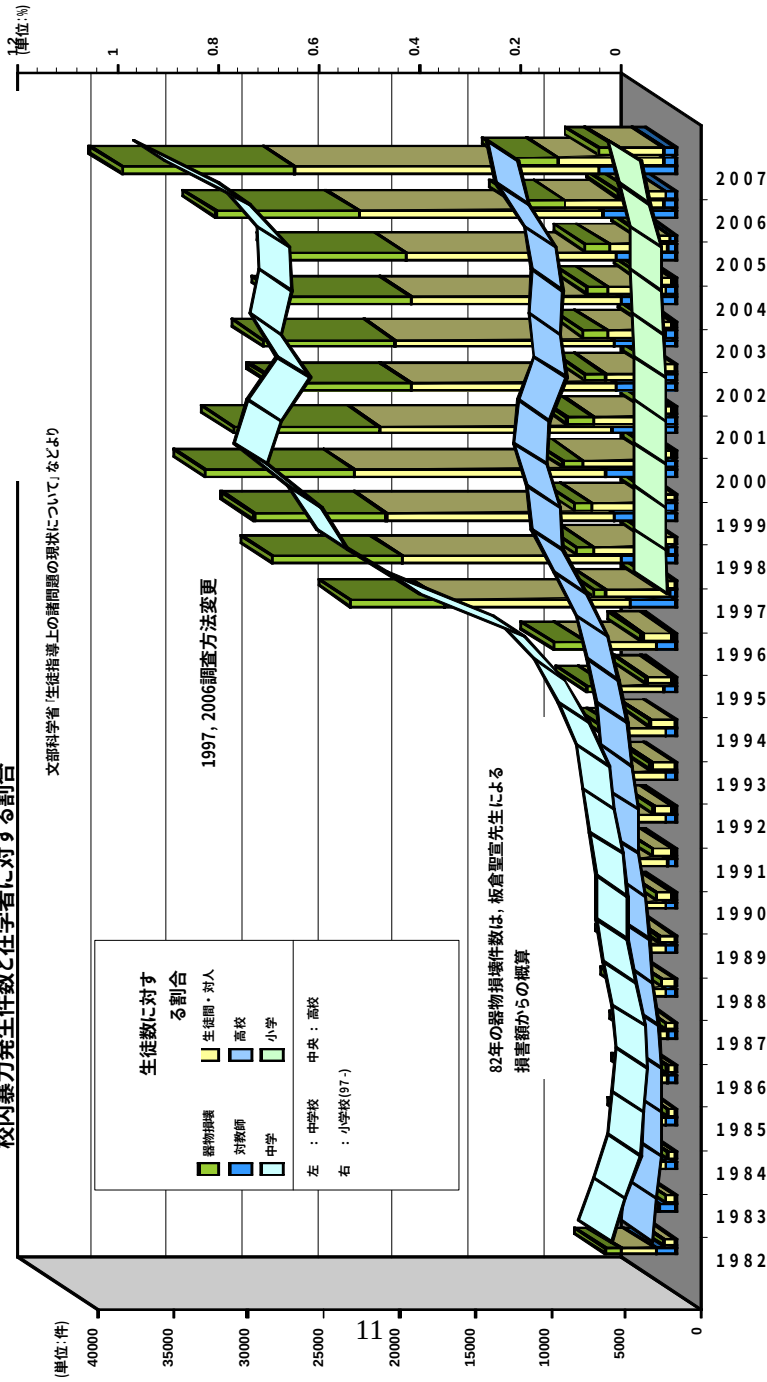
こうして、2006 年度に校内暴力が、それまでの減少傾向から増加に転じたことが、偶然ではなかったことがはっきりとしたのです。

「ゆとり教育」が完全実施されてから、不登校と校内暴力は減少傾向となりました。しかし、「学力重視」への転換に呼応するかのように、不登校と校内暴力は、再び上昇し始めたというわけです。

校内暴力発生件数と在学者に対する割合

[COMAKUTYMA, SHUICHI 2004.12.20/8.12]

文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」などより



第2部 いじめ

【問題】

文科省は、2006 年度からのデータから、それまでの公立学校に加えて「国立学校，私立学校」も加えていますが，次のグラフは「公立学校のみ」のグラフです。

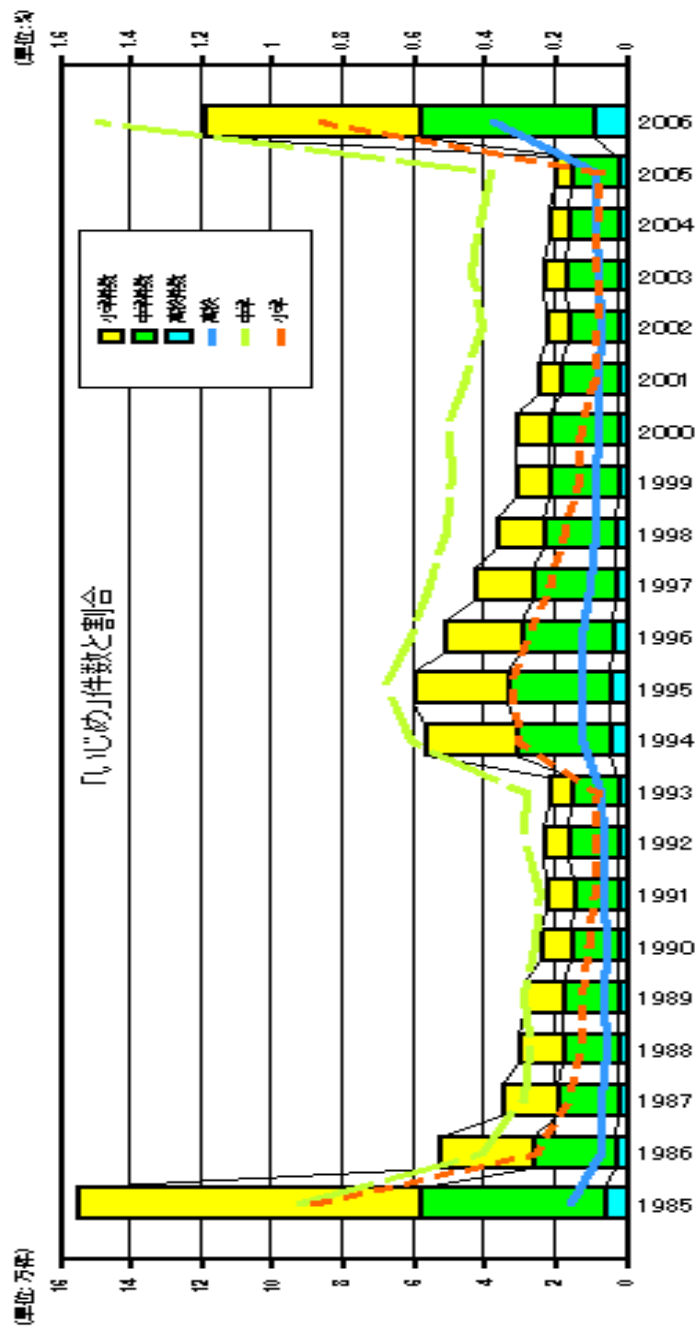
また，この年度から「いじめ」の定義を変更したため，それまで減少傾向を続けてきたのが，一転して件数・割合とも急上昇しました。

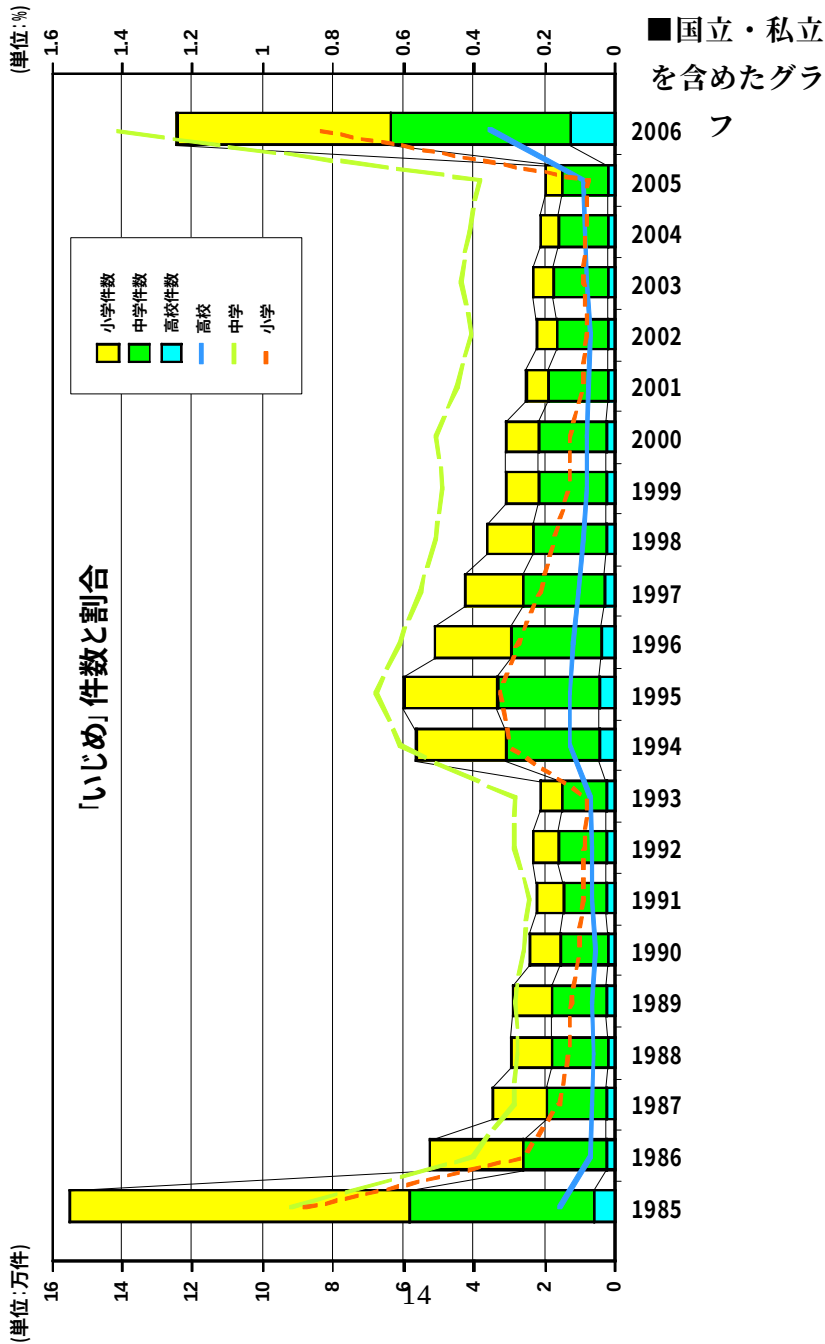
それでは文科省発表と同じく「国立・私立学校」も加えたグラフを書くと，2006 年度の割合のグラフはどうなるのでしょうか。

予想

- ア やはり過去最高となる
- イ 過去最高とはならない
- ウ なんともいえない

校内暴力では，公立よりも私学の方が割合が大きかったのですが，いじめではどうでしょうか。





国立・私立学校のデータを含めると、件数は若干多くなりますが、比率は逆に小さな値になります。つまり、「いじめ」は、国立や私立学校では少ないのです。2006年度のいじめのデータを見てみましょう。

		件数	在籍数	割合
国立	小	196	46484	0.42%
	中	239	33407	0.72%
	高	7	8844	0.08%
	計	442	88735	0.50%
公立	小	60380	7067863	0.85%
	中	49443	3320772	1.49%
	高	9166	2456231	0.37%
	計	118989	12844866	0.93%
私立	小	321	73070	0.44%
	中	1628	247348	0.66%
	高	3134	1038282	0.30%
	計	5083	1358700	0.37%

「校内暴力」では、私立学校の割合が大きかったのですが、「いじめ」では、公立学校が多いことがわかります。

しかし、校内暴力の時と同じく、国立・私立のデータを加えても、グラフに大きな違いはありません。そこでこれからは、国立・私立のデータも加えたものを見ていくことにします。

■定義変更

文科省は 2006 年度のデータから、国立と私立学校を調査に加えるとともに、「いじめ」の定義を変更しました。

新しい定義は「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」となり、それまでの定義にあった「自分より弱い者」「一方的に」「継続的に」「深刻な」の文言がすべて削除されました。さらに文科省は「調査ではアンケートなどで直接生徒児童に聞くこと」としていました。

グラフのように、いじめは、件数・割合とも 2005 年度まで減少傾向を続けてきました。2006 年に、この結果を文科省が発表したとき、マスコミのいじめについての報道は全くと言っていいほどありませんでした。しかし、その後の「いじめによる自殺事件」や、「教育基本法改正問題」ともからんで、「いじめが教育での一番の問題」として、マスコミは大々的に報道を始めたのでした。そして、それを受けて文科省は「いじめアンケート」を行ったり、このように定義を変更することになったわけです。

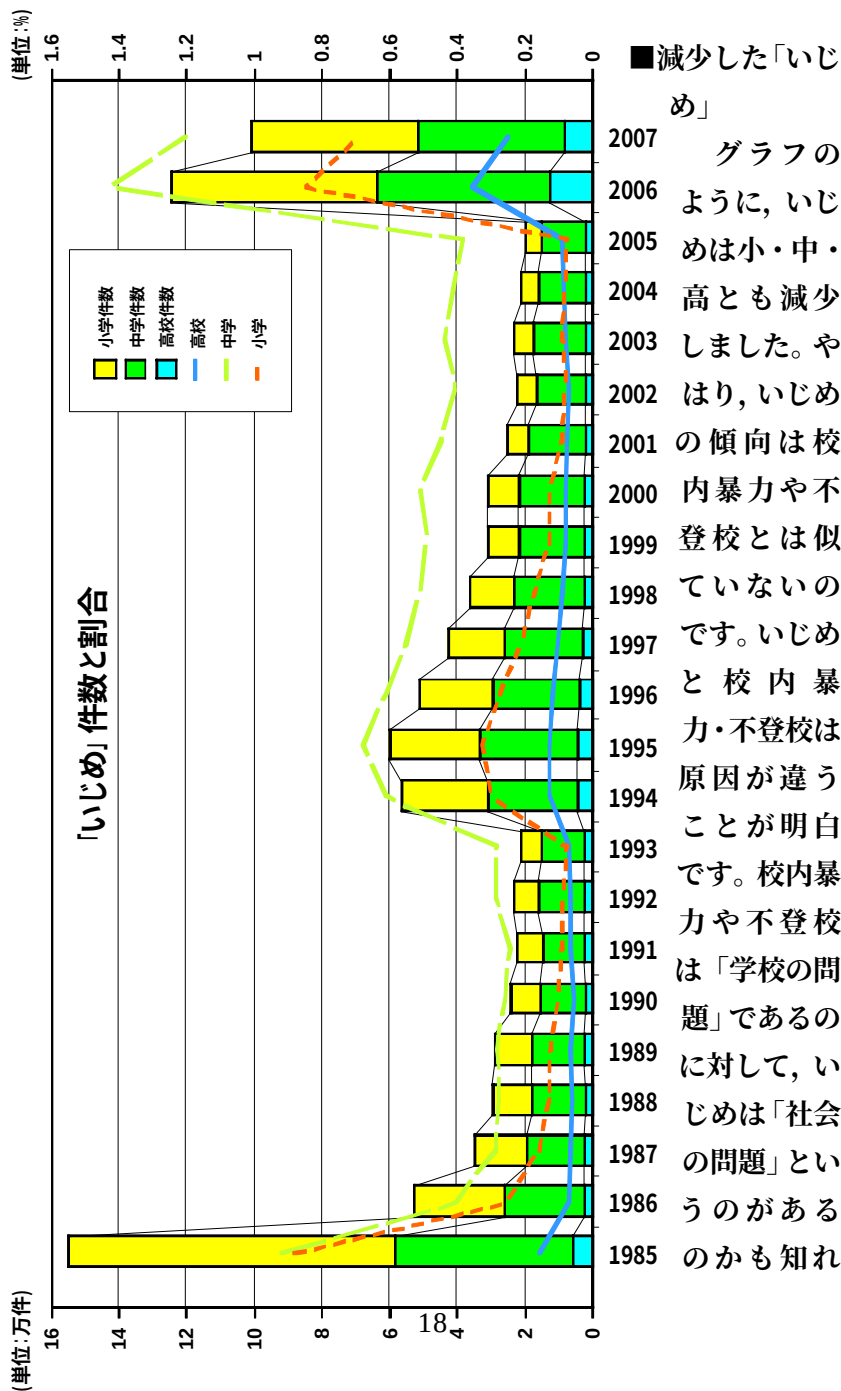
【問題】

2006 年度のいじめは、定義の変更で、件数・比率とも 6 倍に増加しました。では、2007 年度はどうだったでしょうか。さらに増えたでしょうか。

予想

- ア さらに増えた
- イ 減った
- ウ なんともいえない

2006 年度では、特に小学校は前年度の 12 倍になりましたが。2007 年度ではどうだったでしょうか。



ません。

■第三部 報道

【問題】

これらの「いじめ」と「校内暴力」についての文科省発表をマスコミはどう報道したでしょうか。

昨年、全国紙各紙は過去最高となった校内暴力については全く無関心で、各紙とも「いじめ急増」とする記事を掲げました。

では、今年はどうだったでしょうか。いじめは減少したとはいえ、まだ高水準です。今年の全国紙の記事タイトルで一番多かったのは、いじめでしょうか、それとも校内暴力でしょうか。

予想

ア 「校内暴力」

イ 「いじめ」

ウ 「校内暴力」と「いじめ」両方

紙名	2007 年の記事タイトル
朝日	いじめ、06 年度急増 12 万件 聞き取り重視の結果
読売	いじめ把握 6 倍 12 万件…昨年度、文科省調査
毎日	いじめ：全国の小中高校、6 倍の 12 万件 自殺「一因」 6 件——昨年度
日経	「いじめ」12 万 5000 件、定義広げ 6.2 倍に・文科省 公立小中高の校内暴力、最多の 3 万 5700 件・06 年度
産経	いじめ一挙 6 倍、定義を見直し 12 万 5000 件

トップ記事で取り上げた全国紙はあったでしょうか。

■「校内暴力」一色

全国紙各紙は、今度は一転して、過去最高となった校内暴力についての報道一色となりました。一面記事で取り上げたのが3紙あり、そのうち2紙はトップ記事でした。

紙名	一面トップ記事
朝日	児童生徒の暴力最多
読売	元次官夫妻殺害 ドアに犯人指紋なし
毎日	元次官宅襲撃「30～40歳、作業服の男」
日経	世界の主要産業市場縮小へ
産経	小学生の暴力事件急増

紙名	2008年の記事タイトル
朝日	児童生徒の暴力最多、「ネットいじめ」21%増（第一面トップ）
読売	小中高生暴力、5万3000件、「ネットいじめ」2割増（社会面）
毎日	小中高生 暴力行為件数、最悪に（第一面）
日経	子供の暴力、最悪5万3000件 いじめ なお10万件超（社会面）
産経	小学生の暴力事件急増 我慢覚え口より手（第一面トップ）

校内暴力の実態をいくつかの全国紙が次のように伝えています。

紙名	記事
朝日	はさみで背中刺す子も…突然の感情爆発、苦悩する学校 その数、5万2756件。文部科学省の調査で過去最多を更新した「子どもの暴力」に学校が悩んでいる。ささいに見えることで感情を爆発させ、重い結果を招いてしまうことも。解決に向け、校外の機関や専門家と連携する動きも出ている。 17日、香川県丸亀市の市立小学校で、6年生の男子児童が、同級生の男子に工作用のはさみ（刃渡り約10センチ）で背中を刺された。命に別条はなかったが、全治約1カ月の重傷を負った。 きっかけは、担任が配ったA4判の1枚のプリントだった。日曜に自宅でテレビゲームをしないよう呼びかけたが、加害者の男子が「プリントの絵に似ている」と声が上がった。男子は冷やかされたと思い、机にあった自分のはさみで刺したという。 「ちょっとした口論で顔を殴ってしまう」「いきなり顔を、なんて昔はあまりなかった」。東京都内のある中学校の養護教諭は言う。物にも当たる。突然石像を殴って手にけがをした子は「ここまで痛いと思わなかった」と言った。「勉強もできて、みんなの中心になっている子なんですが」 首都圏の別の中学の養護教諭は「言葉でコミュニケーションをとる力が不足していて、すぐに手が出てしまうようだ」とみる。ふだん一緒に遊んでいる友だち

とすれ違いざまに肩がぶつかり、互いにわざとだと思ってけんかになる。「ごめんね、とひと言あれば何でもないので」

千葉大の明石要一教授（教育社会学）は「かつては荒れているグループがはっきりしたが、今は一人ひとりの突発的な暴力が目立ち、対応が難しくなっている」と指摘する。昔は子ども同士の遊びなどで身につけたはずの社会性が乏しく「ルールなき学校社会」が現れているという。

横浜市教委は07年度から、市内18小学校で「児童指導コーディネーター」という教員を置く。担任から外して授業の負担も減らし、生徒指導の対応を専門に担う。教委の担当者は「担任が1人で抱え込みがちなので、チームで対応できるようにした」と話す。

いま、各地で注目されているのは「スクールソーシャルワーカー」。校外の機関と学校をつなぐコーディネーターのような役割だ。虐待や親の養育上の悩みなど、家庭の問題にもかかわる。

香川県や大阪府などが先行し、今年度は文部科学省も約15億円の予算を計上。ほぼすべての都道府県で350ほどのモデル事業が動いている。

九州のある小学校は昨年度、社会福祉士にスクールソーシャルワーカーとして月2回来てもらった。児童相談所、福祉事務所などの担当者と「ケース会議」と呼ばれる話し合いを設け、個々の子どもの問題点や改善計画を共有した。校長は「教育と福祉のはざまに問

	題がある。役割分担がはっきりし、学校にも余裕が生まれた」という。(宮本茂頼、野田枝里子)
読売	
毎日	小中高生、暴力行為最多 愛に飢え暴発 低い自己肯定感 ◇さびしさと、むかつきと、もどかしさと――親も「荒れた８０年代」育ち 文部科学省が発表した「問題行動」調査結果は、幅広い年代で暴力が深刻化している実態を浮き彫りにした。専門家らは「愛情を注がれずに育った自己肯定感のない子が突然、キレている」と指摘。新しい校内暴力の時代に、現場は苦悩している。【三木陽介、山本紀子、林田雅浩、平川哲也】 ささいなきっかけから容赦ないパンチをいきなり見舞うのが、最近の暴力の特徴だ。 「センコー、さっさとしろよ」。倉庫のカギ開けに手間取っていた東京都内の中学教員に、男子生徒がいらついた声を出した。「その口の利き方は何だ」。注意した教員は突然腹にパンチをくらい、肋骨（ろっこつ）にヒビが入った。 横浜市内のある中学では年約３０件、生徒同士の暴力でケガに至る事案が起きる。「うわさで悪口を言われたと思い込み、出会った瞬間、突然殴る。言い合いをして、つかみ合って……という過程がなくなった」。副校長は嘆く。 一緒に塾に行かなかった、下敷きを見せてくれな

った――。横浜市教育委員会に届く報告は、たわいない原因がほとんどだ。

大阪府内の小学校の50代の女性教諭は「机を投げる子がいたが、相手がケガをするという発想がない。暴力の度が過ぎ、もどかしさを感じるとすぐに手が出る」という。

校内の備品も壊される。「机を3階の窓から放り投げる、教室で教科書を燃やして騒ぐ。かつて中学であった校内暴力が小学校で起きている」。岐阜県内の小学校の校医を務める小児科医は言う。「荒れる子の親は、80年代に学校が大荒れした時代に中学校に通った。そんな親のもと、自己肯定感をはぐくみ損ね、価値観の不安定な子が暴れている」

授業妨害を繰り返す従来のような校内暴力もある。福岡県田川郡の中学では、校長と教頭が心労で休・退職に追い込まれた。今年3月には校長室で茶わんを壊すなどした2生徒が逮捕された。授業中にキャッチボールをする子もいた。教諭の1人は「生徒の親は、非行の戦後第3のピークといわれた80年代に育った。善悪の区別や規範意識が十分しつけられていない」とみる。

どんな子がキレるのか。子育てに熱心でなかったり、経済的に余裕のない親のもと、愛情を注がれていない子が暴発しやすいという見方が、教育現場で一般的だ。

東京都大田区教委の内野雅晶・統括指導主事はいう。「愛されていない子は寂しく、自暴自棄になりがち。

問題行動で注意され、怒りがあふれんばかりになって、教師の何気ない一言で『うぜー』『ぶっ殺す』と爆発する」

「学級崩壊も再び目立ち、新しい校内暴力の時代に入った」と話すのは、埼玉県内で小学校教諭を務めた増田修治・白梅学園大准教授。「勉強できない子はダメ、という価値観の押しつけで、自己肯定感が低くなり日々のむかつきにつながっている」と分析する。

◇警察と連携、地域で見守り…

現場はどう対応しているのか。

京都府城陽市の小学校では昨年、一部児童が窓ガラスを割って教員にけがをさせる騒ぎを繰り返し、市教委は警察との連携を強化した。警察官を交えたサポートチームで話し合い、地元署員が問題児童や保護者の相談にのった。警察官OBが学校を見回る「スクールサポーター」は、40都道府県教委が導入している。

指導力のある教員を「児童指導コーディネーター」として活用するのは横浜市。昨年度から小学校18校に配置し、トラブル防止に努めている。大田区も昨年度から、「生活指導支援員」として大学生らをニーズのある学校に派遣する。

スクールソーシャルワーカーと連携し、地域や家庭への働きかけで教育環境を改善する動きも広がる。大阪府は05年から、寝屋川市の和光小に配置。問題を抱えた子に教職員が一丸となって背景や対応策を協議する。保護者の悩みを受け止め、子どものプラスにな

	ることを共に考えることで荒れは収まり、不登校もゼロになった。 丸山涼子校長は「問題を起こす子は『困った子』ではなく『困っている子』だ」という認識を全教職員が持てるようになった」と、福祉の視点による支援を訴える。文科省は今年度から、大阪府や香川県など350地域でスクールソーシャルワーカーの活用を始め、全国での配置を目指している。 ◇集団と折り合いつかず――栃木県大田原市でスクールカウンセラーを務める中村恵子・東京学芸大非常勤講師の話 かつての校内暴力では思春期の中学生が、がんじがらめにする大人や社会に反逆していたが、今は違う。原因は、集団と折り合いをつける力が育っていない子の増加にある。幼児の社会性は主に家ではぐくまれる。親の社会性が未熟だと子どもの発達も損なわれ、小学校入学後は、集団になじめず、ストレスを暴力として発散することが多い。
日経	「彼女とささいな口論をした腹いせに学校のガラスを割った」「一緒に塾に行く約束を破っただけで翌日相手を殴った」など短絡的な暴力が目立つという。五十代の教員は「言葉で解決しようとせず、コミュニケーション力の低下を感じる」と話す。
産経	小学生の暴力事件急増 我慢覚えず「口より手」にとまどう現場 小学生による暴力行為の深刻さが浮かび上がった。

歯止めがきかない子。口より先に手が出る子。暴力の矛先は子供同士だけでなく、教師にも向いている。「この20年で子供の質がすっかり変わってしまった」とベテラン教師は嘆く。一体、教育現場で何が起きているのか。

「うるせえ。くそばばあ」。愛知県内の小学校に勤めるベテラン女性教諭は数年前、小5の男子児童の授業態度を注意した途端、逆に食ってかかれた。「受け入れたくない人はすべて嫌いと思っている。ガードが堅く、心が見えない。10～20年前はこんなことなかったのに」とこのベテラン教諭。

手加減なく体当たりする子。気にいらないことがあると机を投げる子。いきなり隣席の子をたたくなど授業を妨害するケースも少なくない。目を離すと、すぐにけんかになる。おちおち職員室で休憩も取れない。「言葉よりも先に手や足が出る。自分の考えを伝えることが下手になった」

暴力をふるう小学生は上級生になるほど増えてくる。暴力をふるった児童数計5111人のうち、5、6年の2学年だけで計3290人で全体の6割を占める。

こうした状況について、千葉大教育学部の明石要一教授（教育社会学）は「3～4年生の遊びのスタイルの変わってきたことが大きい」と要因を挙げる。

この年代は、仲間うちで空き地で秘密基地を作るなど集団行動を覚え、他者とのコミュニケーションを学

	ぶ時期だという。明石教授は「しかし今は、その年代の子供から塾に行くなど忙しく、友達と遊ぶ時間も遊ぶ場もない。だから、自分をうまくコントロールできないのでは」と指摘する。 また、子供の暴力は歯止めがきかないケースが多い。ある５０歳代の男性教諭は、はさみを持って、教室で暴れる小３男児を羽交い締めしようとして、振り回されて骨折した。別の女性教諭は、授業中に席を立て騒ぐ子を抑えようとして足をけられたという。 「今の先生は『子供たちが何を考えているのか分からず、怖い』と不安がっている」と東京成徳大子ども学部長の深谷昌志教授。その一方、「普通に育てればいい。一緒にご飯を食べ、一緒に風呂に入り、声をかけてやること。大人が環境を整えれば、子供の心は開かれるはず」と話す。
--	--

また、いじめについては記事本文で次のような程度です。

紙名	記事内容
朝日	いじめの認知件数は１０万１１２７件で２万件以上減少したが、文科省は「認知できていないだけの可能性もある」と慎重な見方を示している。 ０７年度の「いじめ」は計約１０万１千件で、過去最多の０６年度からは約２割減に。校種別では小学校約４万９９００件（２０％減）、中学校約４万３５００件（１５％減）、高校約８４００件（３２％減）。前回調査では、いじめの定義から「一方的」「継続的」などの表現を削り、公立だけだっ

	た調査対象に国立と私立も加えたため、前年度比で6倍超になった。文科省の担当者は「なお深刻に考えている」と話す。 携帯電話のサイトや学校裏サイトなどネット関連のいじめは約5900件。初調査の前年度より21%増えた。
読 売	いじめは前年の06年度調査で、認定範囲を「いじめを受けたと子供が感じたケース」に広げた結果、約6倍増の12万4898件に膨らんだ。ところが、今回の調査では約2万4000件減10万1127件にとどまった。これについて、文科省は「減少したものの依然、高水準」として警戒を緩めない。 また、いじめの中の「ネットいじめ」は前年度比1016件増の5899件を数えた。「学校裏サイト」などのホームページや、ネット上の自己紹介サイト「プロフ」を使って、個人を中傷するケースが多いという。
毎 日	いじめについては、特別支援学校を含む計4万38校を調べた。認知件数は10万1127件（同19・0%減）で、▽小学校4万8896件（同19・7%減）▽中学校4万3505件（同15・2%減）▽高校8385件（同31・9%減）▽特別支援学校341件（同11・2%減）。 ネットいじめは5899件（同20・8%増）に上った。
日 経	いじめは前年度より約24000件減ったが、文科省は「現場で対策が進んだから減ったという確信は持てない」と慎重な見方だ。 「ネットいじめ」が21%も増えるなど、課題はなお多い。 大阪樟蔭女子大の森田洋司学長は「大人社会のモラルの低下、規範のすさまじさが子供の世界にも影響を及ぼしている」と

	指摘。
産 経	いじめでは、認知件数の減少とともに、いじめを「認知した」とする学校数も46.9%（同8.1ポイント減）と半数を割った。しかし、調査で「認知しなかった」とする学校は、認知した学校よりアンケート調査の実施といったいじめの実態把握に消極的とする結果も出ており、文科省は「油断できない状況」として、学校側に一層の対策を求める方針。携帯電話などネットを利用したいじめは5.8%で、同1.9ポイント増加した。

どの全国紙も今年はいじめには、あまり関心がないのがわかります。ただ「ネットいじめ」を取り上げたところもいくつかありました。

【問題】

文科省はいじめについては「減少したものの依然、高水準」「なお深刻に考えている」「油断できない状況」とコメントしているようです。では校内暴力増加の原因については、どんなコメントをしているのでしょうか。

予想

- ア 「子どもの問題である」
- イ 「社会全体の問題である」
- ウ 「親の問題である」
- エ 「教師や学校の問題である」
- オ 「調査方法変更のため」
- カ そのほか

■文科省のコメント

紙名	文科省の校内暴力についてのコメント
朝日	暴力行為の調査では、前回０６年度から、けがや診断書、警察への届けの有無に関係なく報告するよう求め、さらに今回は各校が書き込む調査票にも明記し、積極的な報告を促した。こうした方針が実数増の背景にあるが、文科省は子どもの変質ぶりも暴力増加の要因に挙げており「自分の感情がコントロールできない」「ルールを守る意識やコミュニケーション能力が低下している」などとみている。
読売	文科省によると、暴力行為が過去最多になったのは、０７年度調査から、〈１〉警察へ被害届を出さない〈２〉医師の診断書がない――などのケースについて、報告に加えるよう改めて都道府県教委に促したため。
毎日	暴力行為の増加について文科省は「憂慮すべき状況。スクールカウンセラーなどの配置を進めたい」と話している。
日経	文科省は「感情を抑えられない子供が増えているとの報告が多い」（児童生徒課）と懸念。同じ子供が暴力を繰り返す傾向も強まっているという。
産経	暴力行為が増加した理由について、文科省は都道府県教委の分析として、児童生徒が自分の感情をコントロールできない▽規範意識の低下▽コミュニケーション能力の不足―を挙げている。

このように、いくつかの新聞では校内暴力増加原因を「調査方

法変更のため」としています。しかし、実際に調査方法が変更された 2006 年度の調査では、そのことを文科省は強調せず、またマスコミも日経以外は報道すらしていなかったのです。

それは見当違いというものです。また、多くの全国紙で校内暴力増加の原因を「子どもが悪くなった」との文科省コメントを報道しています。

【問題】

では全国紙各紙はこれらの結果をどのように受け止めているのでしょうか。昨年は、日経を除いた各紙は「いじめ」についての社説を出していました。それでは、今年はどうだったのでしょうか。

予想

- ア 多くの全国紙が社説を掲げた
- イ 一部の全国紙だけだった
- ウ 社説で取り上げた全国紙はなかった
- エ そのほか

■社説

紙名	社説の一部
朝日	子どもの暴力—いら立ちの芽を摘むには 「会社では課長はヒラをいじめ、ヒラは家に帰り女房をいじめ、女房は子どもをいじめ、子どもは学校で自分より弱い子どもをいじめるんです」 毒舌漫談で中高年の女性らに絶大な人気がある綾小路きみまろさんは、こんなセリフで爆笑を誘う。 ではどうすればいいのだろう。何より家庭の役割が重要なのではないか。 荒れる子どもに共通しているのは、日頃からいら立ちやストレスを感じていることだという。特に、親による勉強へのプレッシャーなどが原因となっている例が目立つようだ。 自分の子どもは日々、何にいら立っているのか、細心の注意を払おう。テストや通知表ばかりに目をむけていると、SOSを見過ごしてしまう。 もっとも、切れやすいのは子どもたちだけではない。大人の世界でも、電車内のささいなトラブルから暴力事件に発展することなどが珍しくない。 いら立ちの芽を早めに摘み、漫談のネタになるような連鎖から子どもたちを救わなくてはならない。
読売	いじめ調査 実態を本当に把握できたのか 実態調査は、いじめを防ぐための第一歩だ。それを踏まえ、原因を究明してこそ、対策を立てることができる。もっと調査の精度を高める工夫が必要ではないか。

	教師には、児童生徒や親が相談しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築く努力が欠かせまい。
毎日	荒れる子供たち 調査結果を具体策に生かせ 今回、暴力行為増加が注目され、その背景に何があり、緊急にどのような対処が必要なのか方策が求められている。机上論や内輪話にとどめないためには、実例に立ち、経緯や要因、対応の成否や工夫など現場の経験と教訓を広く共有しなければならない。 学校のありようは社会を映しているともいわれる。不安や不信、疎外感などが醸し出す暴力を黙過するような風潮。そこに学校教育が全く無縁であるはずはない。今回の調査を「傾向」を見るためにとどめず、きちんと「対策」に結実させなければならない。
日経	なし
産経	小学生の暴力 家庭もしつけに責任持て 子供の「荒れ」は親にも責任がある。学校と連携したしつけと指導が重要だ。 しつけや指導では、だめなことはだめとルールを決め、厳しく守らせることが大事だ。だが、親も教師もしかるのが下手だ。 子供の顔色を気にしすぎて厳しく罰すべきときにしかない。社会に出て初めて叱責（しっせき）を受け、それが理由で会社を辞めてしまう若者の問題とも無縁ではない。 子供の問題行動は、日常接する親と教師の責任が重い。「突然キレル」子供でも日ごろの変化があるはずだ。食

	事のときに子供の顔をちゃんとみていない親が多くはないか。子供と向き合う機会をもっと増やしてほしい。 家庭と学校との連携が欠かせない。だが、授業で騒ぐ子を廊下に立たせただけで教師に文句をつける親もいる。親が率先して教師の悪口を言うようでは子供はますます教師を尊敬しない。もっとお互いに信頼し合わねば、学校でも毅然（きぜん）とした指導ができない。 当たり前のことを当たり前にさせるのが家庭のしつけだ。専門家も、子供とは食卓を囲むよう心がけ、声をかけるなど「普通に育てればいい」と話す。この連休は、親が子と一緒に体験や話し合う時間を持ち、家庭の教育を見直してみる機会としてほしい。
--	--

毎日と産経は、「これが実態とはいえない。もっとしっかりと調査すべき」というような主張です。

【問題】

大阪府は全国で４番目の校内暴力率です。そこで知事は、校内暴力を減少させるために、どんな方針を打ち出したと思いますか。

予想

- ア 学校予算の増加
- イ 学校評価制度
- ウ 警察との連携
- エ そのほか

■学力重視

橋下知事は校内暴力よりも先に、「全国学力テストで大阪府の成績が低迷している」として「基礎学力の向上」を方針としていました。そして、校内暴力の結果についての対策も、「基礎学力が身についていないから子供たちが自暴自棄になって荒れていく」としたのです。府教育委員会も「知事が打ち出した一連の学力向上策を問題行動の抑止にもつなげたい」として、「（橋下知事が主張しているように）勉強が分かるようになれば、ある程度は治まると考えられる。基礎的な学習を徹底していくことで、問題行動の数値を下げていきたい」としています。

また知事は「携帯電話の使用はわいせつな情報や暴力、いじめを誘発して子どもらに悪影響を与える」として、2009 年度より「小・中学生に対して、原則的に校内における携帯電話の所持を禁止し、高校生も校内での通話を規制する」ことにしたのです。

さらに、教育再生会議は、この大阪府の決定を全国に拡大することを提言しています。

最近のいじめや校内暴力は、携帯電話が原因なののでしょうか。でも、この大阪府の実験結果がたのしみです。

あなたの予想はどうですか。

【問題】

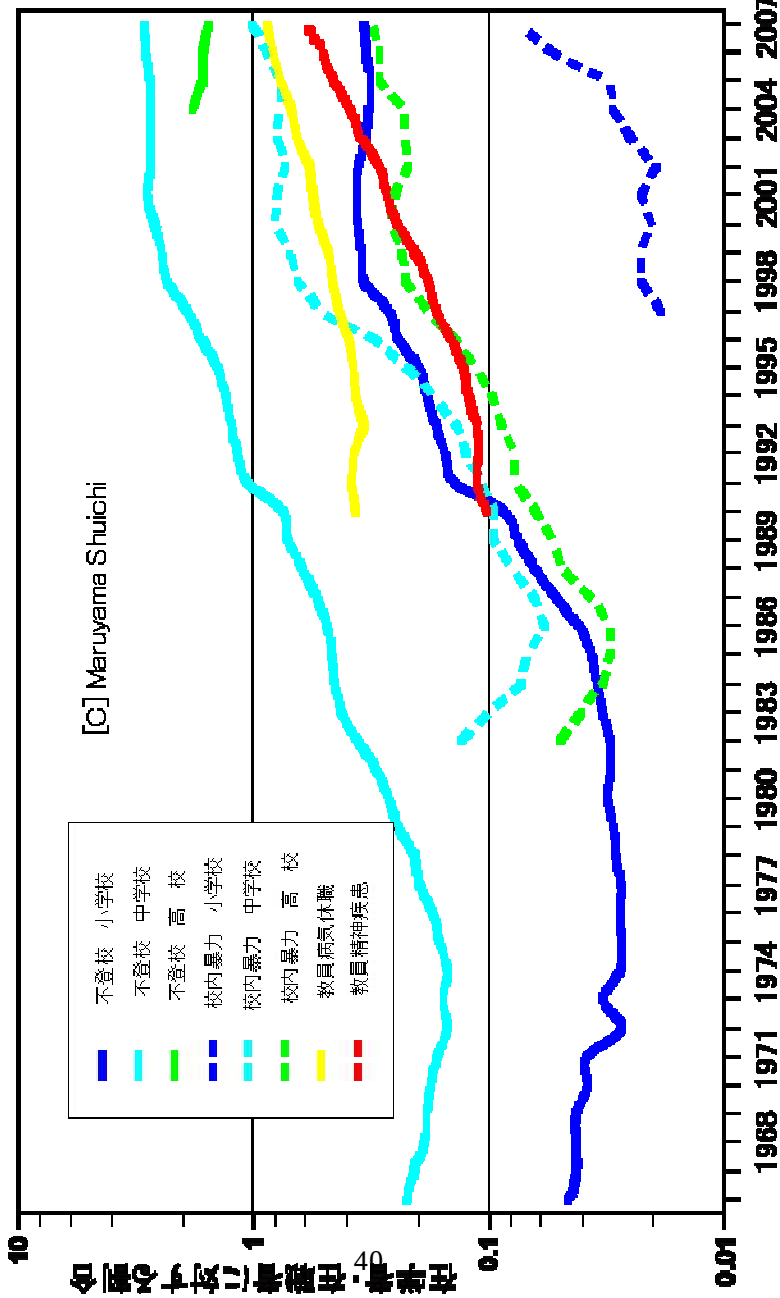
かねてから文科省は「体罰がいじめの原因のひとつ」として、体罰禁止の徹底を何度か通知してきました。では、教師による体罰は、減ってきているのでしょうか。

また、これまでずっと教職員の病気休職の割合は、増加を続けています。では、最新のデータではどうなっているのでしょうか。

つづく・・・か

(%)

不登校者数・校内暴力発生件数・教職員の病氣休職者数



(単位)

■陳謝

あーーーーー時間がなあいいい

最新のデータをグラフに入れるべく、年賀状元旦配達締め切りの 25 日まで待って、仕方がないので、最新データを入れずに年賀状を出したら、その日の夕方に最新データが発表されました。

ただ、この体罰や教職員の処分に対するもともとのデータがなかなか見つかりません。うーん、まとめられない。ごめんなさい。

丸山秀一

■ 典拠文献

- ・ 文科省，平成 18 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
- ・ 全国紙各紙
- ・ 丸山秀一「グラフで見る校内暴力といじめ 2006」レポート，2006
- ・ 丸山秀一「グラフで見る校内暴力といじめ 2007」レポート，2007

丸山秀一 shusan3@gmail.com

■ 典拠文献

- ・ 文科省，平成 18 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
- ・ 全国紙各紙
- ・ 丸山秀一「グラフで見る校内暴力といじめ 2006」レポート，2006
- ・ NHK 特集「青い目 茶色い目」1988
- ・ NHK「特別授業 差別を知る ～カナダ ある小学校の試み～」2006

体罰が増えている 2007 年度 16 今年度 12 月 18 日までで 19

<http://www3.famille.ne.jp/~mkuroki/toso/kankyo/22syu.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/悪臭防止法>

http://www.np-g.com/csr/report/environment_societ/web_ver/es_p/c2/osen/syuuki.html

<http://209.85.165.104/search?q=cache:TbwSYo9iossJ:www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/r/U/Q/UQxVfRKbDXndychM5IVwH29v.pdf+%E8%A3%BD%E7%B4%99%E5%B7%A5%E5%A0%B4%E3%80%80%E8%87%AD%E3%81%84&hl=en&ct=clnk&cd=9&client=opera>

<http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/r/U/Q/UQxVfRKBdXndychM5IVwH29v.pdf>